



加盟  
団体



サンフレッチェ広島



JTサンダーズ



ワクナガレオリック



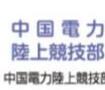
広島メイプルレッズ



広島ガスバドミントン部



NTT西日本ソフトテニス部



中国電力陸上競技部



コココーラレッドスパークスホッケー部



広島東洋カープ

トップス広島 事務局

〒734-0007

広島市南区皆実町2-8-42  
猫田記念体育館1F

TEL:082-254-2012

FAX:082-251-5712

URL:www.tops-h.net/

このQRコードから  
公式Webサイトへ  
アクセスできます。



広島東洋カープ

## 2019 年度新入団選手発表

12月10日(月)、新たにチームに加わった8人の新入団選手が、広島市内のホテルで入団会見を行った。選手たちは、報道陣をはじめ約610人のファン倶楽部会員の前で、それぞれの決意を口にし、プロ選手への第一歩を踏み出した。

ドラフト1位の小園海斗選手は、4球団から1位指名を受けた期待の新人選手である。2年連続で日本代表にも選出されており、同世代の中でもトップクラスの実力を持っている。会見では、「日本を代表するようなショート、選手になっていけるように頑張っていきたいと思っています。」と強い意志を示した。また、ドラフト2位の島内颯太郎選手も、大学の先輩である大瀬良選手のように新人王をとれるように頑張るという意気込みであった。その他にもこれからのカープを担う選手が入団した。

新人選手らは、1月6日(日)に入寮を終え、翌日から合同自主トレを開始した。カープを勝利へ導く選手へと成長し、リーグ優勝、日本一に大きく貢献してほしい。



JTサンダーズ

## 天皇杯優勝！

12月23日(日)、平成30年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会の男子ファイナルラウンドが行われた。決勝進出を決めたJTサンダーズは東レアローズとの試合に臨んだ。

第1セット、序盤から相手に一歩抜け出された状態が続いたが、タイムアウトを要求し、立て直しを図った。タイムアウト後は点差を詰めて行き、13-14まで追い上げる。そこから小野寺選手の速攻などで15-14と逆転した。しかし、その後は一進一退の攻防が続いた。終盤では先に相手にセットポイントを奪われるが、ここから連続得点でセットポイントを迎え、最後はエドガー選手が押し込み26-24で第1セットを先取した。

第2セット、勢いに乗るJTサンダーズは、出だしから連続得点を重ね、1回目のテクニカルタイムアウトを8-4とリードして迎えた。その後も劉選手のサーブが走り5連続得点で13-5と大きくリードを広げた。リードしたまま試合が進んで行くが、20-14から2度の3連続失点を喫し、21-20と1点差に詰め寄られてしまう。ここでタイムアウトを要求。これが功を奏し、サービスエースなどで連続得点を挙げ、そのまま押し切り25-22で第2セットも奪った。

第3セット、出だしから4連続失点を喫すなどし、1回目のテクニカルタイムアウトを5-8で迎えた。しかし、5-8から4連続得点を挙げ、9-8と逆転に成功する。ここからお互いが譲らずに拮抗した展開が続く。迎えた20-20の場面、ここで試合が動く。小野寺選手とエドガー選手のスパイクが決まり22-20と抜け出すとそのまま逃げ切り、25-23で第3セットも取り、ストレートで見事に勝利した。

今大会、JTサンダーズは1セットも取られない素晴らしい内容で、4大会ぶりに優勝を飾った。

強烈なスパイクを放つエドガー選手





## ホッケークリニック in 長崎

11月18日(日)、長崎県・川棚大崎自然公園交流広場にてホッケークリニックを開催した。ホッケークリニックとは、選手・スタッフが講師となってホッケー競技者に対して技術指導を行う活動で、地域社会貢献の一環として毎年全国数箇所で開催している。

この日は、ホーグッド監督が考案したメニューを中心にパスやシュートなどの基礎練習やミニゲームなどの実戦に近い練習を行った。子供たちからはホッケーを楽しみつつも、真剣にプレーする姿が見取れた。2018年最後のホッケークリニックを非常に充実した内容で終えることができた。



ホーグッド監督の話をもとに真剣に聞く一瞬

## 激闘！高円宮杯 2018 ホッケー日本リーグ最終節

12月22日(土)～23日(日)、東京・駒沢オリンピック公園総合運動場第一球技場において高円宮杯 2018 ホッケー日本リーグ最終節が開催された。その初日、南都銀行 SHOOTING STARS との準決勝が行われた。決勝戦進出を懸けた大事な一戦は開始早々、No. 8 田中のパスを受けた No. 11 辻井がプッシュシュートを決め、レッドスパークスが先制点を決める。このままレッドスパークスが勢いに乗るかと思われた第2クォーター、南都銀行に2点取られ逆転されてしまう。その後、第3クォーターでさらに1失点。第4クォーターに攻勢をしかけるレッドスパークスは No. 17 山田がゴール前の混戦からシュートを決めるもあと一歩及ばず2-3で敗戦し、決勝戦に駒を進めることができなかった。

翌日、山梨学院 CROWNING GLORIES との3位決定戦が行われた。試合は序盤から激しい攻防戦となり、開始早々、山梨学院にシュートを打たれるが、No. 12 GK 中村が好セーブを見せる。試合が動いたのは12分、No. 9 江村がゴール前へ絶好のセンターリングを上げ、No. 11 辻井が押し込み先制する。その後、第2クォーターは両チーム無得点、第3クォーターは1点ずつ決め2-1で第4クォーターを向かえる。開始から山梨学院に攻め込まれると、ラインアウトするかと思われたボールがポストに当たってゴール前へと跳ね返り、それを押し込まれ、同点にされてしまう。レッドスパークスは再度勝ち越しを狙うが決着はつかず、シュートアウトへともつれこむ。両チーム9人終えても決着がつかず迎えた10人目。先行のレッドスパークスがゴールを決められず、最後は山梨学院が決めて試合終了。悔しい逆転負けを許し4位という残念な結果で2018年シーズンの日本リーグを終えた。2019年は必ずや、頂点に輝く姿を見たい。



巧みにボールを操る辻井選手



## 手に汗握る！！

## 第72回全日本総合バドミントン選手権大会

11月26日(月)～12月2日(日)に、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館にて、第72回全日本総合バドミントン選手権大会が行われた。シングルスに下田選手と濱北選手、混合ダブルスに江藤(広島ガス)・高階(新篠津開発)組と亀田(広島ガス)・石川(丸杉)組が出場した。濱北選手、亀田・石川組は予選から、下田選手、江藤・高階組は本戦からの出場であった。

濱北選手、亀田・石川組は1ゲームを取るも、全選手が初戦で敗れ、悔しい結果となった。2019年はバドミントン部が躍動する年になることを期待したい。



## 第 13 回 祇園・興動祭にサンチェくんが出演

11月18日(日)に広島経済大学の興動館で行われた第13回祇園・興動祭にサンチェくんが特別ゲストとして出演した。興動祭とは、学生と地域が一緒に行うお祭りであり、普段交流する機会の少ない地域の方々と触れ合う貴重な場となった。

当日は生憎の悪天候にもかかわらず多くの人々が訪れ、活気に満ち溢れていた。昨年に引き続き、今年もスポーツによる地域活性化プロジェクトとコラボし、イベントを盛り上げた。サンチェくんは、〇×クイズとサンチェたいそうに出演し、終始子供たちに囲まれ、大人気であった。〇×クイズでは、見事に正解することができた子供たちの笑顔溢れる様子を見て取ることができた。また、サンチェたいそうを会場内のたくさんの人々と踊ることができ、サンフレッチェ広島をより身近に感じてもらうことができたのではないだろうか。

今回のイベントは、今年の興動祭のテーマでもある「わ」が広がった魅力あるお祭りとなった。また、イベントを通して改めて多くのファンに愛されていることを肌で感じた。これを機に、さらに多くの人々に「わ」が広がってほしい。

来場者とサンチェたいそうを踊るサンチェくん



## 豊田合成に敗れ、三連敗

12月2日(日)、佐伯区スポーツセンターで行われた第43回日本ハンドボールリーグ、豊田合成との一戦。

前半、先制に成功したのは湧永製薬。しかし、直後に豊田合成に逆転を許してしまい、10-16とリードされ前半を終える。ホームで負けられない湧永製薬は巻き返しを図りたいところだが、リーグ戦2位と好調の豊田合成をなかなか攻略できない。結局、湧永製薬は、前半の流れが大きく影響し、26-33で豊田合成に敗れた。

リーグ戦で連敗が続く、ホームでなんとか白星が欲しかった一戦での敗戦。痛い一敗となったが、まだ戦いは続く。悪い流れを断ち切って勢いに乗ってほしいところだ。



## 前人未到の9連覇達成

12月14日(金)から16日(日)までの3日間、愛知県豊田市のスカイホール豊田で第36回ソフトテニス日本リーグが開催された。

2日目初戦にキャプテン船水選手が1時間を超える試合を制し、チームは急加速。しかし、船水選手は痙攣を起こしかけ、この試合以降、トレーナーからストップがかかった。この試合の窮地を救ったのはルーキーの広岡宙選手だった。船水選手の代わりにシングルスを務め、2日目の残り2試合を快心のテニスでチームをさらに勢いづかせた。

5戦全勝で迎えた最終日、東邦ガス戦ではルーキーの村田匠選手・広岡宙選手ペアが4-3、復活した船水雄太選手が4-1、長江光一選手・丸中大明選手ペアが4-1と勝利し、ヨネックスとの最終戦へと臨んだ。強豪を相手にしながらも、初戦で長江光一選手・丸中大明選手ペアは4-1で攻めきり、広岡宙選手も4-1で勝利し、優勝を決めた。全勝での完全優勝(全て3-0勝ち)に王手をかけたNTT西日本だったが、3番手の船水雄太選手・林大喜選手ペアは、ヨネックスに2-4で惜しくも敗れてしまった。

7戦全勝中、全21対戦で落としたのは1戦のみと完全優勝とはならなかったが、前人未到の9連覇を達成した。



奮闘を見せる広岡選手

## 全日本実業団対抗駅伝競走大会



快走する4区岡本選手

1月1日(火)、群馬県庁(群馬県前橋市)を発着点とする、7区間100.0kmのコースを全37チームが競う、全日本実業団対抗駅伝競走大会(通称:ニューイヤー駅伝)に出場した。27年連続27回目の出場で前年7月に就任した田幸新監督による中国電力チームでのニューイヤー駅伝初陣となった今大会は、1区北魁道選手、2区山崎亮平選手、3区藤川拓也選手、4区岡本直己選手、5区松井智靖選手、6区兼実省伍選手、7区清谷匠選手のメンバーで挑んだ。

2区終了時に32位と出遅れたが、3区藤川選手の区間5位の力走から上位チームを猛追。各チームのエースが揃う4区で岡本選手が区間2位の快走を見せ、5区松井選手で8位に手が届く9位まで順位を押し上げ、6区の兼実も良い流れを引き継ぎ、最終7区の清谷選手へ。結果は8位のカネボウとゴール前での激しい競り合いに敗れ、100分の1秒差(公式記録同タイム)で惜しくも9位となり、4年ぶりの入賞とはならなかった。目標の8位入賞まで本当にあと一步届かなかった。

8位入賞という目標を達成することはできなかったが、それぞれの選手が今もっている力を発揮し、次につながる、収穫の多い大会となった。この悔しさを胸に田幸新監督の下、これから新たなチームを作り上げ、来年の今大会入賞はもちろん、さらに高い順位で勝負をする、強い新中国電力陸上競技部を魅せていってほしい。



広島メイプルレッズ

## 新春2連勝!

1月6日(日)、大阪の金岡公園体育館で行われた第43回日本ハンドボールリーグ。新春2連勝を目指すメイプルレッズは現時点で1勝1敗同士の三重バイオレットアイリスとの一戦。

前半立ち上がり、先制点を許すとそこから立て続けに4点を失った。しかしその後、相手のパスを奪い、すばやいカウンターから最後は3番の石川が決め1点を返す。ところが、相手のすばやい攻撃をなかなか止められず点差は8点まで広がる。メイプルも粘りを見せ5点差まで縮め前半を終える。後半に入ると19番木村の連続2ゴールから勢いに乗る。そこから、4連続ポイントで一気に1点差まで追い詰める。さらに勢いは増していき、ついに逆転。その後もディフェンス陣が堅い守備を見せるなどして最大8点差までつけられていた試合を見事逆転し、23-21で勝利を収めた。

メイプルはこれで大阪ラヴィッツ戦に続き後半戦2連勝。次の試合は1月12日(土)にホームでHC名古屋と対戦する。このままの勢いで連勝を飾り、さらに波に乗ることができるか。

各チームの1推し選手を紹介します。

### ☆選手紹介コーナー☆



コカ・コーラレッドスパークス

#### 中村 瑛香選手

生年月日 1996年3月4日

身長 168cm

血液型 O型

出身地 栃木県

↓担当者からのコメント

最後の砦であるゴールキーパーを務め、素早い判断でどんなシュートも身体を張って守ります!ぜひご注目ください!



シュート体勢に入る眞継選手



### ロゴマークの意味

広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。